

(写)

資料番号
No. 2

2020年8月20日

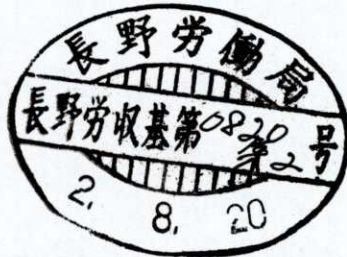
長野労働局長 中原 正裕 殿

生協労連 コープながの労働組合

中央執行委員長 高橋 和也

塩尻市宗賀本山 4145-1

電話 0263-51-1235



2020（令和2）年度長野地方最低賃金審議会の 答申に対する異議申立書

労働者の労働条件の向上と国民経済の健全な発展に向け、真剣にご尽力いただいている委員の皆様にご心から敬意を表します。

長野県最低賃金審議会は、8月5日、今年度の最低賃金の改定について、現行の848円を1円引き上げて849円にすると答申しました。コロナ禍という厳しい状況を踏まえて検討を重ねられた結果であるとは思いますが、

しかしながら、この最低賃金額は、長野県民であり労働者でもある私たちにとって到底納得できる金額ではなく、1日8時間、週40時間働いても、憲法25条で保障された「健康で文化的な最低限の暮らし」という人権を保障し、長野県の労働者の確保と地域経済の活性化という点において不十分な答申といわざるを得ません。今回、中央最低賃金審議会が引き上げ額の見直しを示さず、地方の審議会に審議を要請したことは、コロナ禍だからこそ許されることではありません。しかし、長野県としての独自判断で東京都などとの「大きな格差」を是正するチャンスでもあります。この非常事態とも言えるコロナ禍で、自分の身や家族の健康に気遣いながら懸命に働いているエッセンシャルワーカーには最低賃金近傍で働く非正規労働者が数多くいます。誰もが当たり前前の生活を送るために欠くことのできない職種でありながら、低賃金なのです。こうした非正規労働者の低賃金を改善するためにも、今年こそ大幅な最賃引き上げを行うべきです。

私たちが加盟する長野県労連では、今年「最低生計費試算調査」を行い、その結果を長野最低賃金審議会に資料として提出致しました。その調査では最低生計費が、長野市で『1,699円』となり、同様の調査を行った東京都北区の『1,664円』と変わらないという結果が明らかになりました。また同時に、現在の最低賃金、長野県=848円、東京都=1,013円では、「普通に暮らすことはまったく困難である」ことが明らかになりました。

こうした状況が続けば、若年者をはじめとする労働力の県外流出に拍車をかける一因となることは間違いありません。さらに、アベノミクスによって「雇

用によらない働き方」「非正規化」がすすみ、低賃金労働者が増え続けています。これらを放置すれば、地方の過疎化・高齢化・人口減少が加速し、地域経済のいっそうの疲弊につながります。それらを抑止し、人口減少に歯止めをかけ、地域経済を活性化させるには、労働者の賃金の引き上げと低所得者の底上げが決定的に重要です。

従って、地域別の最低賃金の格差を早期に解消すべきであること。さらに、「最低賃金」は、「1日8時間、週40時間働けば普通に暮らせる」という生活の保障や人権の保障からも「最低賃金1,500円以上」が必要だと考えます。

以上の点から、生協労連 コープながの労働組合として、今回の長野地方最低賃金審議会の「長野県最低賃金の改正決定について（答申）」について下記の異議を申し立てます。

記

1. 長野県最低賃金額を1円引き上げ、849円とするとした答申については不服であるため、長野県の将来のために再審議を求めます。
2. 最低賃金の地域間格差の解消、全国一律最低賃金制などを展望し、最低賃金額を生計維持にふさわしい額への引き上げを求めます。
3. 景気浮揚・最賃引き上げにあたって、中小零細企業の支援策の具体化は急務の課題です。公益見解で述べられているように、政府・厚生労働省・関係各機関に対して有効な中小企業・小規模事業所の支援策をさらに強化・充実させることを求める意見を送付してください。
4. 異議に関する審議について、公開の場での審議を求めます。また、その際意見陳述の機会を保障してください。

以上